

# ①経済協力開発機構(OECD)の「より良い暮らし指標」(Better Life Index) 2012年

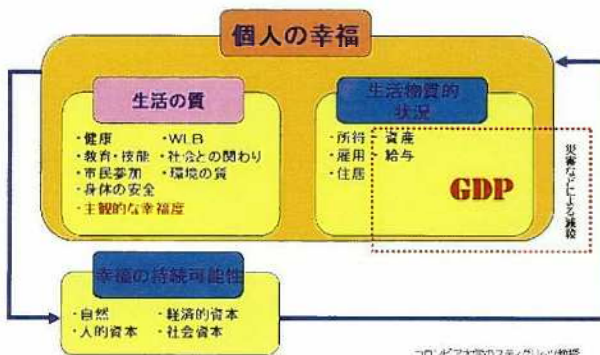
## 【ランキング結果】

1位	オーストラリア	7位	スイス
2位	ノルウェー	8位	オランダ
3位	アメリカ	9位	ニュージーランド
4位	スウェーデン	10位	ルクセンブルク
5位	デンマーク		
6位	カナダ	21位	日本

## 【幸福度の要因と指標の関係】

	要因	指標
幸	住宅	住居費 住宅設備 一人当たり部屋数
	収入	世帯金融資産 世帯可処分所得
	雇用	雇用保障 個人収入 雇用率 長期失業率
福	コミュニティ	支援ネットワーク
	教育	教育期間 学生能力
	環境	水質 大気汚染
度	ガバナンス	社会ルールづくり 投票率
	健康	自己申告による健康度
	生活満足度	生活満足度
	安全	殺人事件発生率 暴行事件発生率
	ワークライフバランス(WLB)	自由時間 長時間労働者割合

## 【調査の基本構造】



②エラスムス大学(オランダ)の幸福度調査  
(2011年)

1位	デンマーク(8.2)	7位	スウェーデン(7.7)
2位	スイス(8.1)	8位	カナダ(7.6)
3位	オーストリア(8.0)	9位	グアテマラ(7.6)
4位	アイスランド(7.8)	10位	ルクセンブルク(7.6)
5位	フィンランド(7.7)		
6位	オーストラリア(7.7)	46位	日本(6.3)

(Erasmus University Rotterdam)

既に発表されている報告をベースとしたメタ調査のアプローチを採っている。World Database of Happiness (WDH) のデータを検証することで、幸福度世界トップ10を上げている。

③フォーブス誌発表の幸福度調査  
(2005年～2009年)

1位	デンマーク	7位	オランダ
2位	フィンランド	8位	カナダ
3位	ノルウエー	9位	イスラエル
4位	スウェーデン	10位	オーストラリア
5位	オランダ		
6位	コスタ・リカ	81位	日本

フォーブス誌と世界的な調査会社であるギャラップ社が協働で行った調査。2005年～2009年まで155カ国を調査。2010年にフォーブス誌で発表した。

④ミシガン大学(米国)社会調査研究所による幸福度調査(2008年)

1位	デンマーク	7位	スイス
2位	プエルトリコ	8位	オランダ
3位	コロンビア	9位	カナダ
4位	アイスランド	10位	オーストリア
5位	北アイルランド		
6位	アイルランド	43位	日本

(University of Michigan)

ミシガン大学の調査は、世界97カ国におよび、世界人口の90%をカバーしている。ミシガン大学によると、幸福度は経済成長よりも、その国の民主化の水準や許容の度合い、特に社会や組織の中での個人の自由や価値観の多様性と密接な関係があると説明されている。

⑤レスター大学(英国) エードリアン・ホワイト教授のメタ分析(2006年)

1位	デンマーク	7位	スウェーデン
2位	スイス	8位	ブータン
3位	オーストリア	9位	ブルネイ
4位	アイスランド	10位	カナダ
5位	バハマ		
6位	フィンランド	90位	日本

この調査はメタ分析と呼ばれるもので、既に発表されている複数の報告を分析することによって結論を得ようとするアプローチである。本調査では、ユネスコなどの報告書(100種以上)を分析し、幸福度のランキングを発表している。

## ⑥世界価値観調査(World Value Survey:WVS)

世界価値観調査協会によってリードされ、世界の社会学者によって行われている調査。日本では電通総研が中心になって行っている。2010年の調査は、電通総研と東大によって行われ、以下のような傾向が指摘されている。

1. 生活や家計の満足度が低下、増加する「中の下」(ロワーミドル)意識
2. 背景には「経済競争力」「雇用・労働状況」の悪化や、「国際政治力」の低下などの社会不安
3. 今後10年間の国家目標として「高い経済成長の維持」を期待
4. 国の役割は「国民の安心な暮らし」の実現 めざすべきは、「財政規律」を重んじ、「福祉などの行政サービスが充実した社会」
5. 「科学技術水準」「文化・芸術」については、日本がよい方向に向かっていると評価
6. 環境や安全に配慮し、創造性を活かし、人と助け合う“共生個人主義”志向は健在、同時に、無駄な出費を避け、必要なことにだけお金をかける堅実消費志向も
7. 消費は自分自身の利益/便益だけでなく、「公共性も考慮すべき」と考える生活者が増加